

沼津高専だより

第95号

平成21年7月10日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600
TEL <055> 921-2700

題字：柳下福蔵 学校長

☆沼津高専 ホームページアドレス (URL) <http://www.numazu-ct.ac.jp/>

目次

☆沼津工業高等専門学校	の目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針	3
☆新年度にあたって	(年度方針等)	
第2期中期目標と沼津高専	……………	学校長 柳下福蔵 …… 4
今年度の方針	……………	副校長(教務主事) 大島 茂 …… 5
Yes, we can!	……………	校長補佐(学生主事) 佐藤 誠 …… 6
寮務報告	……………	校長補佐(寮務主事) 大久保清美 …… 6
機械工学科の現状と今後の取組み	……………	機械工学科長 小林隆志 …… 7
平成21年度を迎えて	……………	電気電子工学科長 望月孔二 …… 8
意気込み新たな年に	……………	電子制御工学科長 舟田敏雄 …… 9
制御情報工学科新年度にあたって	……………	制御情報工学科長 長谷賢治 …… 10
物質工学科新年度にあたって	……………	物質工学科長 押川達夫 …… 11
平成21年度の教養科	……………	教養科長 西垣誠一 …… 11
専攻科からのご挨拶	……………	専攻科長 芳野恭士 …… 12
☆人事異動について		
平成21年度人事異動について	……………	13
平成21年度学級担任	……………	14
平成21年度校務分掌	……………	14
平成21年度学生会・クラブ・同好会顧問教員	……………	15
平成21年度学校医・歯科医・薬剤師・カウンセラー	……………	15
☆着任のご挨拶		
学生のみなさんに伝えたいこと	……………	機械工学科 松田伸也 …… 16
着任にあたっての抱負	……………	制御情報工学科 松本祐子 …… 16
高専生活を送るにあたって	……………	物質工学科 山根説子 …… 17
沼津高専に復帰して	……………	教養科 西垣誠一 …… 17
沼津高専に着任して	……………	教養科 高津浩彰 …… 17
～簡単な自己紹介も含めて～	……………	教養科 澤井 洋 …… 18
礎	……………	総合情報センター 中道義之 …… 18
☆新入生から(入学にあたり)		
沼津高専に入学して	……………	電子制御工学科1年 鈴木克真 …… 19
沼津高専での目標	……………	制御情報工学科1年 古木崇裕 …… 19
☆卒業生から		
社会人の準備	……………	機械工学科37期生 浜野光太 …… 20
近況報告	……………	電子制御工学科15期生 小野田晃久 …… 20
☆留学生から		
はじめまして、ウィエットです	……………	電気電子工学科3年 ウォンターウォン ウィエット …… 21
日本で1年間の生活	……………	電子制御工学科3年 グェン クアン フィ …… 22
☆寮生会活動について		
寮生会活動について	……………	電子制御工学科5年 寮長 濱村 功 …… 23
☆教育後援会から		
会長就任挨拶	……………	教育後援会会長(E5) 海野誓志 …… 24
入学に際して	……………	新入生保護者(D1) 田代一江 …… 24
入学にあたって	……………	新入生保護者(S1) 稲本真奈美 …… 25
☆事務部から		
平成21年度後期分授業料の免除および徴収猶予について	……………	26
平成21年度沼津高専1日体験入学のお知らせ	……………	26
平成21年度(平成21年8月～平成22年3月)行事予定表	……………	27

沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成をおこない、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

新年度にあたって (年度方針等)



第2期中期目標と 沼津高専

学 校 長
柳 下 福 蔵

全国55の国立高専が平成16年4月1日に独立行政法人化して早5年が経過しました。国立高等専門学校機構の第1期(H.16.4.1からH.21.3.31までの5年間)中期目標に対する自己評価結果が、中央教育審議会答申(H.20.12.24に文部科学省に提出)と同様、文部科学省においても高く評価されていることは、本校の教育・研究に日々熱意をもって取り組んでいる教職員の誇りとするところであります。現在、高専機構が策定した第2期(H.21.4.1～H.26.3.31)中期目標、中期計画に基づいて沼津高専の第2期中期計画、平成21年度計画の策定作業を進めています。

河野伊一郎・高専機構理事長が3月31日付けで退任され、林勇二郎先生(元金沢大学学長)が理事長に就任されました。林理事長は4月27日(月)午後に本校視察のために来校され、学生寮、機械実習工場、地域共同テクノセンター等を詳しく見学されました。学生寮では寮生会役員の説明に耳を傾げるだけでなく、自身の学生時代の寮生活を振り返って学生諸君と親しく会話する場面も見受けられました。林理事長は沼津高専の第4代校長・(故)慶伊富長先生とお知り合いであったこと、30数年以前に私の沼津高専時代の恩師を尋ねて本校を訪問していたこと等、私にとって親近感のもてる先生、という印象を強くしました。

5月12日(火)午後に臨時の国立高専校長会が東京(田町)で開催されました。林理事長の挨拶について文部科学省の戸谷審議官、藤原高等教育課長から高専教育に関する国会、文部科学省、中央教育審議会の動きについて説明がなされ、新任校長8名の紹介に続いて高専機構の木谷理事から第2期中期目標、中期計画の内容が詳しく説明されました。文部科学省が、日本のものづくり技術者教育の一翼を担っている高専教育に、強い期待を寄せていることが感じ取れる校長会でした。

高専機構が提示した第2期中期目標の主たるところは、中央教育審議会が「高等専門学校教育の充実について」提示した以下の4項目の内容を具体的に進めるための方策となっています。

- それぞれの高等専門学校が自主的・自律的改革に不断に取組み、社会経済環境の変化に積極的に対応
- 中堅技術者の養成から、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者の養成へ

- 多様な高等教育機関のうちの一つとして本科・専攻科の位置付けを明確に
- 産業界や地域社会との連携を強化し、ものづくり技術力の継承・発展を担いイノベーション創出に貢献する技術者等の輩出へ

これらのことは、本校の教育理念「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」と基本的に相通ずるものであります。本校としては、このような方向性を踏まえながら、教育理念に基づき、引き続き教育組織の充実や教育内容・方法の充実を進めていく所存であります。

特に、産業界や地域社会との連携に関しては、平成16年3月に開設した地域共同テクノセンターを核として地域企業との共同研究・受託研究・技術相談などを引き続き活発に進めていく予定であり、平成18年度から開始した「高専等を活用した中小企業の人材育成事業(経済産業省事業)」は沼津市、静岡県との支援により本年も継続して実施し、地域中小企業の技術者のものづくり教育に協力してまいります。

昨年度から開始した、企業技術者(OBを含む)に本校学生のものづくり教育を担当していただく「企業技術者等活用プログラム」(共同教育)は一層充実した内容に改めて本年度も継続していくことが決定しています。

静岡県は、静岡がんセンターを中核機関として展開しているファルマバレープロジェクトの一環として、県東部15市町の中小企業が医用機器産業へ参入することを支援するための地域再生計画を平成20年度に策定して国から認証を受けていました。この地域再生計画を立案した県関係者の強い要請を受け、沼津高専が主体となり静岡県・東海大学開発工学部と連携して平成21年度文部科学省公募の科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」に「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」のテーマで応募しました。沼津高専がこれまで進めてきたファルマバレープロジェクトへの協力実績・地域中小企業への協力実績が高く評価され、本応募が採択されましたことは学校長としてこの上ない喜びとすると



ころであります。ちなみに、本事業に対して全国から47件の応募があり、内わずか12件が採択されるという大変厳しい選考結果でした。このプログラムは、文部科学省の補助金により、沼津高専教員、東海大学開発工学部教員、企業技術者等が連携協力して県東部15市町の中小企業技術者に医用機器の開発技術・薬事法の知識等を教育するための2年間のプログラムであり、平成21年から3年目に16人、5年目に32人の医用機器開発エンジニアを

育成する計画となっています。

以上述べましたように、沼津高専は県東部地域の産業界、県、市、町との連携を一層進展させ、人柄のよい優秀な学生の育成はもとより、県東部地域に唯一の工科系国立高等教育機関の使命を着実に果たしていくことを決意し、気持ちを新たにしているところであります。

保護者の皆様のご理解と、変わらぬご支援・ご協力をお願いして新年度のごあいさつとします。



今年度の方針

副校長（教務主事）
大島 茂

今年4月1日より副校長（教務主事）を務めることとなりました制御情報工学科の大島です。これまで7年間制御情報工学科長を務めて参りました。異なる立場となりますが、精一杯努力し責務を果たす所存です。村松久巳教務副主事、勝山智男、遠山和之教務主事補、そして山添学生課長を始めとする学生課事務職員の協力を得て教務関連業務全般を担って参ります。

今年度は主に以下のことに力を注いでいきたいと考えています。

- 1) 低学年生の留年、退学の防止
- 2) 入学志願者の確保
- 3) 入学後の学力推移の把握
- 4) 学習到達度評価の継続
- 5) 教養科と専門学科教員の連携強化
- 6) 国際性とコミュニケーション能力の育成
- 7) 企業技術者の協力を得た共同教育の定着

ここ数年の傾向として1、2年次で留年あるいは退学する学生が増えています。問題の解き方のテクニックのみを塾等で教えられのまま覚えるだけという方法で勉強してきた学生は、本校に入学して適切な勉強方法がつかめず授業についていけなくなるというケースが多く見られます。解法を教えられればわかるが、自分の力で問題の解決方法を切り開いていけないという学生が増えています。そのような学生に対しては、適切な学習方法を早く身につけさせる必要があります。前期中間試験後にそのような学生を支援する試みを始めたいと思います。

少子化、理科離れの風潮、工学系への進路決定の先送り化などにより、本校志願者の数も減少傾向にあります。昨年度実施の入学試験では推薦選抜志願者数が125名、学力選抜志願者数が244名で、全体倍率は1.85倍でした。学習意欲が旺盛で学力レベルの高い多くの学生達が切磋琢磨する学習環境を築くためには、より多くの入学志願者を集めることが大切です。在校生達にとってもより良い学習環境が得られることで益するところは大きいです。これ

までも、1日体験入学、中学校訪問、進学説明会、公開講座、出前授業など多くの努力を払っていますが、さらに力を注ぐ所存です。

3年前より、3年次と5年次に「学生による学習到達度自己評価」を、昨年度より4年次と5年次に「教員側から見た学生の学習到達度評価」を実施しています。本校の5つの学習・教育目標に対して、その到達度を数値化して示すことにより、教育改善の指標とすることができ、また学生の勉学に対する意識づけにより効果が期待できます。今年度も継続し、その結果については別の機会にご報告したいと思います。

企業の方や卒業生に聞くと、必ず高専卒業生は英語力が弱いという答えが返ってきます。平成19年度より英語科と専門学科の教員で構成する英語教育カリキュラム検討ワーキンググループが発足し英語力向上策について検討を続けてきました。一つの具体策として、昨年度はTOEIC IP試験を4、5年の全学生に受験させました。現在、企業などで英語能力を評価するのに最も広く採用されているのがTOEICスコアであることから、TOEICを受験させることは自身の英語力を客観的に把握させ、英語に対する学習意欲を刺激するために効果があると考えています。現在は、1年生ではBACE、2年生ではACEの試験を受験させ、そして今年度はTOEIC IP試験を3、4年生に受験させることにしています。同ワーキンググループは今年度も継続し、英語力の向上のみならず国際性の涵養等の面も含めて検討を深めていきたいと考えています。

企業技術者の協力を得た共同教育として「ものづくりステップ・アップ実践プログラム」を昨年度の後期に実施しました。1～3年生を対象に、企業技術者（高専OBを含む）による体験談等を聞く授業を実施し、4年生対象には地域企業における短期インターンシップを、5年生と専攻科生対象にはマーケティング・経営講座及び知的財産講座を開講しました。延べ55企業の協力と68名の講師陣により実施されました。受講した学生達は、地域企業の存在とその技術力を知り、高専で学んでいる知識、技術が産業現場で如何に使われるのかを理解し、特許や経営的視点からの考え方を知る等、多くの成果が得られました。このプログラムを継続し発展させるために、一部改善を加えて今年度も実施する予定で準備を進めています。

以上のようなことを通して、様々な角度から学生達に刺激を与え、勉学意欲を掻き立て励ましていきたいと考

えております。保護者の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



Yes, we can!

校長補佐（学生主事）
佐藤 誠

学生主事となって2年目を迎えることとなりました。今年度もどうぞよろしくお願い致します。大原順一学生副主事、鈴木茂樹先生（S科）、野毛悟先生（E科）、平田陽一郎先生（L科）の3名の学生主事補、7名の学生委員、学生課事務職員とともに学生生活全般の支援を1年間行っ

てまいります。団体優勝し、北海道で行われた全国高専大会に出場しました。今年度も多くのクラブが全国大会の出場を目指してがんばっています。今年度本校は、水泳、柔道、ラグビー、テニスの4種目を担当します。お時間があるようでしたら、会場で学生たちのひたむきな姿を応援していただければと思います。

今年度の就職状況ですが、百年に一度といわれる経済不況の影響は少なからず本校の就職活動にも影響を与えています。5月初旬現在で例年に比べ求人件数が、大幅に減少しています。現在のところ、内定を頂いている学生の数は、昨年とほとんど変わりません。しかし、各学科の就職担当からは例年になく厳しい状況であるとの報告を受けています。学校をあげて学生の就職活動をサポートしていきたいと思

います。今年度は、次のような運営方針のもとに学生指導を行っていきたくて考えております。

1. 学生の安全を第一に考えた学生支援
（交通指導、クラブ活動、学校生活）
2. 学生のモラルの向上
3. 総合学生支援センターの稼働

また、今年度は昨年からワーキンググループを立ち上げ検討してきた総合学生支援センターの運営を開始したいと考えています。これは、多種多様な学生のニーズに対応すべく、学生支援全般を総括的に運営していくことを目的としています。

今年度の学生会長は電子制御工学科4年の市川円君です。沼津高専といえば優秀な寮生会で有名ですが、今年度の学生会は寮生会に負けない学生会を作るという目標を掲げ、がんばっています。運営方針2にあげた学生のモラルの向上については、この学生会を中心にして啓蒙活動を進めていきたいと考えています。学生会では、すでに1年生歓迎行事、クラブ紹介やスポーツ大会を行いました。昨年度は雨で十分にできなかったスポーツ大会も、今年度は晴天に恵まれ、学生たちは思う存分体を動かしていました。今後もいろいろな活動を行っていく予定でおりますので、高専だよりなどを通じて保護者の皆様にご報告していきたいと思っています。

さらに、今年度1年間かけて携帯電話の学内での使用規則についても検討する予定です。これは、今年の4月1日に施行された「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」を受けてのことです。この法律では、保護者のしなければならないこととして、フィルタリングサービスの活用を検討すること、18歳未満の子どものために携帯電話を購入、使用させる場合は事業所に申し出ること（義務）と子どものインターネット使用のルールを決めて、しっかり見守ることがあげられています。この点についても保護者の皆様のご協力をお願いしたいと思

います。今年度も保護者の皆様との連携を密にしながら学生諸君の支援を進めていこうと考えておりますので、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



寮務報告

校長補佐（寮務主事）
大久保 清 美

寮務主事を務めて8年目となりました。今年度も素晴らしい寮生たちと一緒に素晴らしい寮を作っていこうと思

いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

行事等の諸活動については4月以来、新入生歓迎親睦会、防災避難訓練等、様々なことを行ってきましたが、どれも皆、順調に進んできました。寮最大の行事である寮祭も、去る5月17日(日)、あいにくの雨天のため予定のプログラムを多少省略せざるを得ませんでした。無事終了しました。寮祭には多くの保護者の皆様、また柳下校長先生はじめ多くの教職員の皆様にご来場いただき、誠にありがとうございました。

さて、今年度の寮生数は564名。その内訳は、1年生207(30)名、2年生181(21)名、3年生101(13)名、4年生55(6)名、5年生19(1)名、専攻科生0(0)

名です(括弧内は女子人数)。上記内訳の中には、アジアからの外国人留学生9(1)名も含まれています。沼津高専の誇りである素晴らしい寮生会は今年度も健在です。伝統は脈々と受け継がれています。D5瀨村功寮長、D4田中弥副寮長、E3豊川康平副寮長をはじめと

する指導寮生たちの指導力・行動力、そして寮運営に対する真摯な姿勢は、例年に勝るとも劣りません。今年度もこのような素晴らしい寮生会と一緒に寮運営を行えることを心より幸せに、そして誇りに思っています。

寮務担当教職員の方は今年度、大きな異動はありません。2年目を迎えられる寮監の牧野先生はもうすっかりお仕事にも慣れ、寮の大黒柱として寮生指導の最前線でご活躍くださっています。寮務係のスタッフも前年度と変わりありません。前年度は空席にしていた寮務副主事には数学の遠藤先生に就いていただきました。寮務主事補・委員には、前年度から継続の7名に加え、新たに5名に加わっていただき、合計12名の先生方に就いていただいています。皆さん校務多忙の中ですが、棟顧問等、寮生指導に大変熱心に取り組んでいただいています。寮監補(寮母)の田中さんにも引き続き、女子寮生の生活指導等をお願いしています。

施設・設備面に関しては、先の春休み中に翔峰・清峰・優峰3棟の寮室電気容量増設工事を行い、これにより全棟の増設工事が完了しました。また、各居室の椅子、ベッド、ロッカー等の備品の大幅な更新を行いました。

ところで、前年度末のことになりますが、本校「寮生会」がAED(自動体外式除細動器)による救急救命活動で沼津市北消防署長から感謝状を授与され、さらに国立高専機構理事長より表彰状を授与されました。これは、去る1月24日に寮生会主催サッカー大会をグラウンドで開催中、男子学生が突然倒れ、心肺停止状態となりましたが、その場にいた寮長(当時)の遠藤修平君(平成21

年3月卒業)をはじめとする寮生会役員が、心臓マッサージ、AEDの手配及び措置、消防署への通報及び救急車の誘導等的確な連携プレーにより、男子学生の蘇生に成功したものです。沼津市消防本部によると、県東部地域で一般市民がAEDを使って救命したのは初めての事例だとのことです。本学生寮では、消防署と連携し、毎年リーダー研修会の際に救急救命講習を行っており、これらの講習の成果が生かされた形となりましたが、このような見事な連携プレーはまた、仲間の結束が固い本学生寮だからこそできたことだと思っています。

今年度はさらに、寮の歴史に新たな1ページが加わりました。地域連携活動のひとつとして、近隣の長泉北中学校の「放課後学習」の支援を寮生が引き受けることになったのです。現在のところ、4年生1名、3年生1名、2年生4名、1年生6名、合計12名の寮生が分担して、週2回、1回1時間程度、中学生に数学を教えに行っています。先方の担当の先生によると、年齢の近い本校の学生たちに教えてもらうことで、中学生たちは大変やる気を起こしていて、出席率は100%とのこと。英語や国語を受講している生徒たちからも、自分たちのところにも教えに来て欲しいとの声が上がっているようで、大変感謝されています。上級生が下級生に勉強を教える「マテカ」の、言わば寮外拡大版ですが、これだけ多くの寮生(上記12名のほかにもさらに希望者が出てきています)が自ら進んで講師を引き受けてくれたのは、やはり寮の文化としてマテカを持っている本校ならではのと言えるでしょう。この試みが成功することを祈っています。



機械工学科の現状と今後の取組み

機械工学科長
小林 隆 志

今年度から学科長を務めることになりました。昨年秋以降の世界的な金融危機に端を発した景気後退の影響が学校にも及んできている中、また工学教育の一層の改善が求められている中で、学科運営にあたることに大きな責任を感じております。精一杯の努力をいたす所存ですので、皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

まず、機械工学科の近況をご報告いたします。3月には機械工学科卒業生44名(就職32名、進学12名)・専攻科修了生4名(就職4名)が大きな期待を胸に旅立っていきました。将来の活躍が期待されます。4月には本科入学生42名、4年次編入生1名、専攻科入学生4名を迎えました。皆、学校にも慣れて、元気に学校生活を送っています。今年の本科入学生のうち女子学生が5名と、私の知る限りでは最も多い人数です。女子学生数は学年ご

とに1名(M5)、2名(M4)、2名(M3)、3名(M2)であり、徐々に増えています。機械工学分野への女性進出の現れではないかとうれしく思っています。今後の成長が楽しみです。

担任は次の各教員です。M1:渡邊(西田)、M2:松澤(宮内)、M3:手塚、M4:井上、M5:新富。1、2年生の担任は教養科の教員で、機械工学科の教員が副担任(括弧内)として支援にあたります。3年以上は機械工学科の教員です。

年度当初に各クラスで学生諸君に安全と健康には気を付けるようお願いをしました。しかし、残念ながら既にバイク事故によるけがが発生しています。学生の皆さんには改めて安全に留意した行動をお願いしたいと思います。教務面では留年・退学者を出さないように学生支援にあたる方針です。

機械工学科に4月から松田伸也教員を迎えました。松田教員は愛媛大学大学院博士課程を2年で修了した26歳の若い教員です。専門は材料力学・破壊力学分野です。若さを発揮して教育・研究に取り組むとともに、学生のよき相談相手になってくれるものと期待しています。教員11名で学生の教育・指導にあたります。

5年生の進路状況をご報告いたします。就職希望26名、

進学16名(大学編入学希望9名、専攻科希望7名)です。就職指導は手塚教員、進学指導は新富教員が主に担当しています。就職希望者のうち、現時点(5月25日)で内々定(実質的な内定)を受けている者は15名です。昨年同期の内々定率との比較ではほぼ同程度ですが、景気悪化による採用抑制の影響で、就職戦線は極めて厳しい状況です。現在求人をお願いしている会社数は昨年の3割減の約350社となっています。また企業が採用数を大幅に減らしているため、例年より早く募集を締め切る傾向があります。このため、就職活動が長引くと不利になります。専攻科生については3名の就職希望者のうち内定者は現時点で1名という状況です。このような厳しい就職環境ではありますが、これまでどおり就職率100%達成に向けて、機械工学科教員全員で協力して支援にあたっています。大学編入学試験は6月から本格化します。

卒業生が活躍している企業に目を転じますと、近年のコンピュータ利用技術の飛躍的な発展にともない、機械の設計・製造の現場は大きく変貌を遂げています。CAD/CAM(コンピュータを利用した製図・数値情報に基づく

加工)は企業ではごく一般的な技術となり、3次元CADやCAE(有限要素法を中心とするシミュレーション技術)も広く使われるようになってきました。このような状況の中で、工学教育も時代に合わせて変化することが求められています。昨年度に続き今年度も柳下校長のリーダーシップのもと、全国の5高専と協力して設計教育高度化ワークショップの開催を計画しています。機械工学科のよき伝統を守りつつ、世の中の技術進歩にも対応できるようなカリキュラム改善を継続的に進めていきたいと考えています。

最近、伊藤忠商事会長丹羽宇一郎氏のエッセーに触れる機会がありました。アリ、トンボ、人間という段階を経て、優れたリーダーへ成長するプロセスについて書かれていました。苦しい体験と読書の重要性を説いていました。そして最後に、「努力する人間を社会は決して放っておかない。どこかで誰かが見ていて光を当てようとする。」と締めくくっていました。学生の皆さん、努力し続けましょう。きっと素晴らしい未来が拓けます。



平成21年度を迎えて

電気電子工学科長
望月 孔二

昨年度に引き続いて学科長を務めさせていただくことになりました望月です。学生の皆様の成長と先生方の教育・研究がますます盛んになるために働きたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

電気電子工学科では、この4月には1年生41名と留学生1名と編入学生1名が本学科で新たに学び始めました。ともに学び、大きく成長することができますことを願います。

さかのぼる3月には36名の学生が巣立っていきました。うち21名が就職、15名が大学・専攻科への進学でした。健康に注意し、人生の仕事を果たすことができますことをお祈りします。学科のスタッフでは、今まで学科を支えてきた加藤繁先生が定年を迎え、後任として同じ専門分野の眞鍋先生が、本校総合情報センターから学内異動されました。新しいメンバーとはいえ沼津高専を良く知るベテランの教員です。

今年の1年生から5年生までのクラス担任(と副担任)は、駒先生(高矢先生)、住吉先生(大澤友克先生)、眞鍋先生、嶋先生、佐藤憲史先生です。なお、進学指導は担任ですが、就職指導は江間先生が担当です。

毎年4月の御殿場研修において、新入生に対して次のような学科のガイダンスを学科長からさせていただきました。これは本学科のどの学生にも共通することです：

- 電気電子工学の応用範囲は広く、産業界の中でも、最も求められている技術の一つです。例えば、使いやすいエネルギーといえば電気です。環境の点で注目される太陽光発電や風力発電も電気です。情報通信の最前線である携帯電話も、成果の一つです。ICの開発や、その応用技術も該当します。素材の開発によってエレクトロニクスを革新するのも本学科の特徴です。
- カリキュラムの中で繰り返して現れる科目は特に重要です。電気電子工学の専門科目の中で該当するのは、電磁気学と回路理論です。特に回路は、5年生までどの学年でも授業があります。最初の科目である「直流回路」を手始めに回路に強くなれば、上級生でも単に単位が得られます。なお、これらは大学編入学試験でもよく出題されます。
- 教育の場で一番の主役は学生です。自ら学ぶことはとても大切です。もしも「勉強は進級できる程度にとどめて、残りは遊ぶ」といった取り組みなら行く末は危ういでしょう。現在の勉学に全力で取り組んでください。できることなら、卒業後の自分が『人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえる(沼津高専の教育理念)』様子を思い浮かべ、そのために必要なことを自分自身で考えて学べれば最高です。

1年生は、まさにこのガイダンスを心にしるして学習に取り組んで下さい。寮生活や勉強のペースなど、環境が大きく変化しましたが、まずは勉強の習慣を身につけることが大切です。上級生でも繰り返す科目を1年生のうちに好きになれば最高です。高専教育の特徴である実験科目は、1年生のうちは導入教育という位置づけです。研究室を回って電気電子工学の全体像をつかんでもらったり、入門的で体験的な実験を多く取り入れ、大い

に楽しんでもらいます。これは2年生の創造実験、3年生前後の通常型の実験、4年生のPBL、5年生の卒業研究へと続いていきます。

2年生もまだ専門科目の比率は高くありません。この学年でもほとんどが基礎科目であり、自分の力を十分に蓄えることが重要です。

3年生は世間一般では大学受験をする年代ですが、高専では卒業の中間地点です。とはいえ進路を考え始めても早すぎることはありません。なぜなら、4年生の4月には後述のインターンシップ受付が始まるからです。授業では専門科目の比率が半分まで増えます。3・4年で学ぶ内容は、よく大学編入学試験でも出題されます。

4・5年生は、高専生活の仕上げの時期です。

4年生には、進路決定に役立つインターンシップや工場見学旅行や就職懇談会が用意されています。大学進学を希望するなら、大学毎に実施されるオープンキャンパスを利用するのもいいでしょう。特にインターンシップは1～2週間にわたる企業での就業体験であり、単位にもなりますし、最高の企業研究だと言えます。学生には3年次の冬から周知済みです。選択科目のため、希望者は年度早々に担任まで相談が必要です。4・5年の授業は専門科目が多くなり、応用的な科目も増えてきます。



意気込み新たな年に

電子制御工学科長
舟田敏雄

平成21年度の電子制御工学科長を務めさせていただくことになりました舟田です。よろしく、お願い申し上げます。前任の長澤教授の路線を引き継ぎます。

電子制御工学科の設立から現在まで尽力いただきました森井宜治先生が、この3月末日をもって退職されました。数々の業績を上げられましたので、本校名誉教授に推挙されました。新年度からは、特任教授として、森井先生は学生指導にあたられます。

昨年度は退学3名（D2の学生2名、D3の1名は休学中の進路変更）と留年1名（D5学生、現在病気療養中）を別にして、学生全員が進級できました。教員は、授業・試験のみならず、度重なる再評価の指導、follow-up試験、技能審査の受験支援とその合格に関わる単位修得認定、インターンシップなどあらゆる機会を見つけて指導支援して、学生はよく努力し学習目標を達成して合格し、自己の成長を成し遂げたことは、学科として大きな喜びです。

新年度に1年生42名と留学生1名を迎えました。D1の学生・保護者には「本学科では、頑張れば試験で合格でき卒業できること、就職は必ずあること」等をお話し

就職や進学時には成績証明書も必要であり、まずは普通の勉学に手を抜かないことが大事ですが、特に進学希望者は4年次の授業が入試に強く関連しますからなおさらです。なお、進学する学生は受験英語にも自主的に取り組んでください。

今年度の5年生は、5月25日現在、22名の就職志望のところ13名が内々定を戴き、23名が進学志望です。今年度の就職は、4月中旬から一部の企業の試験が始まっています。状況は、平成20年秋からの急激な景気低下を受けて非常に厳しいものです。我々教職員も支援をいたしますが、学生一人ひとりがチャレンジする心を持ち続け、今年も全員進路を決めることを願います。進学希望の学生は6月頃からそれぞれの試験に向かいます。こちらも、最後まで頑張ってもらいたいと思います。なお、進路が決まっても卒業までは学生として勉学に励んでください。

以上、各学年の位置づけや、今年度の様子をざっくりと記させて頂きました。電気電子工学科教職員一同、よりよい学科を築いていきたいと思います。保護者の皆様方も、お気づきの点などございましたら、遠慮なさらず私どもへご相談ください。また、どうぞご理解とご協力をお願いいたします。

しました。今のような不況の時期ですので、ご子弟の高い教育とそれによって約束される将来に大きな期待がかかります。

クラス構成は、2年生43名、3年生47名、4年生43名、5年生44名となりました。今年度は目標として、前年度に続き、次の6点を挙げています：

1. 留年、退学学生を減らし、怠学をなくし、確かな学力・人間力を培う
2. 学生確保対策（電子制御工学科の魅力を発信する）
3. 次期PBLカリキュラムについての検討。
4. 地域産業との連携
5. 工作機器の安全対策
6. 学生のモラル向上

進級して次の目標に向けて頑張らないと「留年、退学学生を減らし、怠学をなくし、確かな学力・人間力を培う」ことが達成できません。学科として科目ごとに最低限修得しなければならない事項をより明確にしつつ、学生諸君にはさらに多くの努力と学習教育目標の達成を求めています。その基礎学力アップの施策と専門教育の体系化が、改めて、問われるところかと思えます。また、学習意欲の向上のために、昨年度にも増して低学年のキャリア教育を充実する方向で、工学技術セミナーの内容充実等を図っています。

「次期PBLカリキュラムについての検討」では、昨年度検討して来た「社会の要請に合った新テーマについて、カリキュラムの企画やスケジュールを立案する」と共に、

卒業研究等で教材整備を行いました。それにより「平成21年度を受講生の約6割が、プラットフォームの変更によりロボット製作の授業に対するモチベーションが高まったと答えており、課題自体の難易度は高く設定されているものの非常に積極的な姿勢で授業に臨んでいる」との現況が報告されています。

「学生のモラル向上」では、クラスでの集団生活としてのマナー、他人への思いやり、相手を理解し尊重する気持ち等を育てることを重視しています。授業中の学習姿勢・態度や学習成果をまとめること等の学習指導、低学年では身なりを整えること・ゲーム持ち込み禁止等の生活指導目標が設定されており、これらの遵守が求められます。

本学科では卒業研究・専攻科研究の研究成果として、国内・国際会議学会発表を行い、論文も多数執筆投稿しています。それらの成果を分かり易くHPなどで紹介したいと思います。

就職危機が報じられておりますが、求人は約330社から

来ております。しかし、毎年のように採用して頂いた企業から「平成21年度の採用を見合わせる」との連絡を昨年の内に頂いており、厳しい現実と受け止められます。現在のD5では、就職希望者は15名、進学希望者は27名、進路未定1名、休学1名で、現在就職活動がピークを迎えており、間もなく専攻科試験と大学編入学試験等が始まります。学生諸君が希望する進路目標を達成できることを願っています。

「学生諸君が1年から5年まで、どれだけ真面目に努力を積み重ねるか」が決定的に重要であることを強調しておきたいと思います。15歳から20歳までの最も多感な成長期に質の高い教育を受けることは、学生にとって一生の財産であると考えています。そのために、私達は一層努力するつもりでございます。

今後とも、保護者の方々、学生諸君、私達教員の三者が協調して信頼関係を保ちつつ、学生諸君の将来を切り拓いて行きたいと思っております。保護者各位のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



制御情報工学科 新年度にあたって

制御情報工学科長
長谷 賢治

前学科長の長谷教授（現、副校長）の後任として、制御情報工学科（略称、S科）の学科長に就任いたしました長谷（専門：制御工学）です。また、昨年9月からこの4月の間に3名のスタッフがS科に赴任しております。

まずは、機械メーカーから相良誠教授。超精密加工機などの機械設計のプロです。「業」としての「ものづくり」の楽しさを学生に伝授していただけたと思います。

次に、阿南高専から中道義之講師。情報システムが専門。コンピュータを变幻自在に操れるプロです。講義「情報処理基礎」でこのプロから洗礼を受ける第1学年の学生諸君は幸せです。

そして3人目は松本祐子助教。東北大学大学院で航空宇宙工学を専攻してきた数値流体力学のプロです。松本女史はS科卒業生でもあり、学生の良き相談役になってくれると思います。

以上、3名を加え総勢12名（教授5、准教授4、講師2、助教1）で学生の教育、指導に全力であたっていく所存ですのでよろしくお願い致します。

さて、世界的な不況に揺れる今年の就職戦線。企業は

新卒の採用予定者数を大幅に減らし、少数精鋭、即戦力となる学生の獲得に動いています。企業が求める人材像もこの3、4年の間に「創造力」、「コミュニケーション能力」、そして、今、「即戦力」と大きく変遷してきています。このような状況で学科のとるべきアクションは何か。この変化への追従か？「否」。われわれは、このように社会情勢が変化し、企業が求める人材像が変わっても不変な「もの」、「本質的なもの」を見出し、それを伝える教育プログラムを学生に提供しようと考えます。そこで、本年度の運営方針を以下の4つに決めました。

(P1) 教育プログラムの見直し：教育プログラムの分析を行い、サプライズのある講義、実験等をデザインします。

(P2) 教育力の強化：教員の教育力向上プログラムを作成します。また、教育は教員と学生のコラボレーション。学生の意識変革プログラムの作成も同時に作成します。

(P3) 学生へのサービスの向上：進路指導体制の強化並びに企業と学生が出会える「場（Ba）」の創生を図ります。

(P4) 広報力の強化：集団力は学生を飛躍的に成長させる。その意味において個性のある学生が集う学校にしなければなりません。そのためにも社会に向けた広報活動を充実させます。

以上がS科の本年度の運営方針です。何とぞ、皆様のご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



物質工学科 新年度にあたって

物質工学科長
押川 達夫

平成21年度が始まり3ヶ月を過ぎようとしております。昨年度に引き続き学科長を担います。どうぞ宜しくお願い致します。新1年生においては、中学校とは異なる授業時間や寮生活で戸惑っている時期も少しずつ薄れてきたのではと思います。

さて、本年3月末に望月明彦教授が退職されました。化学の基礎学問である分析化学を学生達に30年以上教授してきた望月先生を失うことは本学科においても痛手ですが、薫科講師が分析化学を担当し、教育の質低下を招くことなく学科の教員一丸となって鋭意努力する所存です。一方、本年4月より東京医科歯科大学博士課程を修めた山根説子助教が着任致しました。山根教員は高分子化学を中心に授業と実験を担当します。

教育面として、昨今学科の悩みは学業不振学生が微増していることがあります。保護者の皆様からお子様を預かっている私達教員として、今まで以上に学生と接しながら注意深く指導を行っていくよう学科会議で意見一致させています。具体的には演習問題等を頻繁に実施することによって習熟度を向上させることを学科の先生にお願いしているところです。

一方、1年生への導入教育として実施している「物質工学入門」の科目では、近年の若年層が苦手としている手先を動かしての工夫作業を実施し、この効果が出てくる4年後が期待されるところです。今年度より「物質工科学学生実験指導書(2~4年次分)」を一冊の指導書に

まとめ、2年生から年次進行で利用することとなりました。各学生実験それぞれに配布していた指導書を冊子化することによって、各専門実験が相互に関連していることを学生に意識させ、さらに教員も担当の専門実験内容を他教員に開示することにより、実験内容の質向上に繋がる効果を狙っております。研究面では、各教員が積極的に地域企業との産学連携開発研究に取り組んでおります。これらの共同研究では卒業研究生(5年生)や専攻科生も参画しており、その教育効果も出ているところで

す。今年度の就職面について説明しておきます。昨年度までは景気が好調で、いわゆる「売り手市場」でした。しかしながら、今年度4月から始まった就職活動は「買い手市場」であり、本当に厳しい状況です。以前よりお世話いただいている企業様でも不採用になっております。これを読んでいる学生諸君！直ちに経済状況が向上するとは考えにくいです。L字で経済が進行する(急激に減少し、そのまま低迷する意味)のではとされています。某大手企業は全評価の30%以上がA評価でなければ書類選考で落としますと明言しています。そのためには(1)日頃の勉強に勤しんでほしい！(2)勉強で理解できないことは放置しないで担当の先生を尋ねて教えてもらう！(3)部活動は退部しないでチームワークを形成する意識を形成してほしい！(4)ネットで情報を得るのではなく、新聞をきっちり読む！(5)クラスの仲間同士で勉強を教え合う！以上の事柄を実行して下さい。保護者の皆様へ、厳しい経済状況ですがお子様を励ましながら、時には厳しい態度で自立を促すようご指導をお願いいたたく存じます。私達、物質工学科教員一同も精一杯の力で学生を指導していきます。学生、保護者、教員のトライアングル関係を円滑に作動させていきたく思います。どうぞご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

ころです。

さて、教養科にはこの4月より私以外に、数学の澤井洋講師・体育の高津浩彰准教授の2名の教員が加わり、現在24名の常勤教員の体制となっています。二人の自己紹介は別記されると思いますので、ここでは簡単に紹介します。澤井先生は初めて教職に就かれる先生なので、フレッシュな風を教養科にそして沼津高専に吹き込んでくれるものと期待しています。高津先生は高専間人事交流で今年度1年間だけではありますが、豊田高専より来ていただきました。豊田高専での経験からいろいろなことを教えていただけるものと期待しております。

前置きが長くなりましたが、教養科とは主に低学年の教育に携わっている教員の集団であり、1・2年生の担任は教養科教員が勤めています。各学年では毎年学年目標を定め、その目標を念頭に足並みを揃えて指導するよう努めています。今年度の学年目標は、次の通りです。



平成21年度の教養科

教養科長
西垣 誠一

今年度より教養科長となりました西垣と申します。よろしく申し上げます。「着任のご挨拶」のところでも書いておりますが、私はこの3月までの3年間、高専間教員人事交流制度により米子高専に勤務しておりました。それ以前の21年間は沼津高専で勤務しておりましたので、勿論わかっていることも多いのですが、沼津高専でもこの3年間にいろいろなことがあり、物事の経緯など承知していないことも多々あります。その辺りを教養科の先生方のご協力のもと、そして何より前教養科長の勝山智男教授にいろいろとお教えいただきながらやっていると

第1学年

- 一、規則を守り、自律した生活を送る
- 一、授業を大切に、計画的に学習する
- 一、他者を思いやり、公共物を大切に

第2学年

- 一、将来を見据え、自ら進んで勉強する
- 一、個人の価値を認め、尊重する
- 一、ルールを守り、規律ある生活をする

このように学年としての横の繋がりを持って指導するとともに、縦の繋がりに当たる専門学科との連携を密にするために、1・2年とも各学科の先生方に副担任を勤めていただき、学科の指導方針をも念頭においた教育・指導を心がけております。

以上のような指導方針のもと、沼津高専に入学した学生諸君が知識を蓄えるのみならず、人間としても立派に育ってくれることを願っております。



専攻科からのご挨拶

専攻科長

芳野 恭 士

4年目の専攻科長を務めさせていただきます芳野です。よろしくお願いいたします。

本校専攻科は平成8年度に設置され、今年度で14年目になります。4月に新入生30名を迎えて、専攻科には現在1、2年生を合わせて65名の学生が在籍しています。これに対し、68名と学生数とほぼ同じ人数の教員が専攻科を担当しており、少人数教育を実践しています。

今年度は、平成16年度に日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けた、本科4、5年の教育課程とともに編成している「総合システム工学」教育プログラムの認定継続審査が予定されており、その準備を進めているところです。本校の教育プログラムは、JABEEの「工学(融合複合・新領域)関連分野」での認定を受けています。その特徴として、本科で各自の最も得意とする専門分野(機械工学や電気電子工学、情報工学、物質工学など)の知識と技術を習得した後、専攻科ではそれに一層磨きをかけながらも様々な分野の工学の基礎知識を広く学習し、最終的には大学評価・学位授与機構の試験を受けて学士(工学)を取得することにあります。専攻科では、開講している座学は所属の専攻に関係なく選択が可能で、どの科目を履修するかは研究指導教員の指導のもとに各学生が決めます。

また、専攻科実験では、すべての学生が自分の出身学科以外の分野についての実験を行う「総合実験」を取り入れています。さらには、昨年度から異なる専攻の学生がチームを組んで実務的なテーマの解決を目指す「複合実験」を実施し始め、受講生に好評を得ています。

今後も、高い能力を身に付けた技術者の育成のため、様々な工夫を行っていきたく考えています。

専攻科生の進路については、修了生は学士ですので、企業への就職のほか大学院への進学も可能です。昨年度は、29名の学生が修了し、そのうちの23名が就職、6名が進学を果たしました。昨年末からの世界的不況のため企業の求人状況は決してよいとはいえませんが、今年度も多くの就職希望者がおり、積極的に就職活動を行っています。一方、大学院による専攻科生の受け入れ状況は活発です。今年度はすでに山梨大学が本校で説明会を実施し、この後も東京大学や九州大学などの説明会が予定されています。

ところで、JABEE認定校である本校専攻科の修了生には、「修習技術者」の資格が与えられます。「修習技術者」は、技術者にとっての国家資格の一つである「技術士」と契約を結ぶことで、やはり国家資格である「技術士補」になることができます。本校では、修了生が静岡県東部で「技術士補」を目指すための体制を整備するために、昨年度から学校周辺で活躍されている技術士に協力をお願いを行っています。

今後も、本校専攻科は学生や社会にとって魅力のある教育課程を目指して努力して参りますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

平成21年度 人事異動について

発令日付	氏名	異動の内容	旧職名等
平成21年3月31日	森井 宜治	定年退職	教授（電子制御工学科）
	加藤 繁	定年退職	准教授（電気電子工学科）
	望月 明彦	退職	教授（物質工学科）
	相原 義弘	退職（福島大学）	教授（教養科）
平成21年4月1日	大島 茂	教務主事を併任	教授（制御情報工学科）
	堀江 太郎	鈴鹿工業高等専門学校に配置換	講師（教養科）
	内堀 晃彦	宇部工業高等専門学校に配置換	准教授（電子制御工学科）
	西垣 誠一	教授（教養科）に配置換 教養科長を併任	米子工業高等専門学校
	高津 浩彰	准教授（教養科）に配置換	豊田工業高等専門学校
	中道 義之	講師（総合情報センター）に昇任 （配置換）	阿南工業高等専門学校
	澤井 洋	講師（教養科）に採用	
	松田 伸也	助教（機械工学科）に採用	
	松本 祐子	助教（制御情報工学科）に採用	
	山根 説子	助教（物質工学科）に採用	
	森井 宜治	特任教授（電子制御工学科）に再雇用	教授（電子制御工学科）

平成21年度 校務分掌

校 長	
	柳下 福蔵
副校長（教務主事）	
	教授 大島 茂
校長補佐（学生主事）	
	教授 佐藤 誠
校長補佐（寮務主事）	
	教授 大久保清美
機械工学科長	
	教授 小林 隆志
電気電子工学科長	
	教授 望月 孔二
電子制御工学科長	
	教授 舟田 敏雄
制御情報工学科長	
	教授 長谷 賢治
物質工学科長	
	教授 押川 達夫
教養科長	
	教授 西垣 誠一
専攻科長	
	教授 芳野 恭士
図書館長	
	教授 江間 敏
総合情報センター長	
	教授 牛丸 真司
	(副) 講師 中道 義之
地域共同テクノセンター長	
	教授 蓮實 文彦
	(副) 教授 藤尾三紀夫
技術室長	
	教授 西田 友久
	技術長 増田 博代
学生生活支援室長	
	准教授 小林 美学
実習工場長	
	教授 小林 隆志
	(副) 准教授 井上 聡
事務部長	
	奥野 芳明
総務課長	
	布施 典明
	課長補佐 露木 弘充
	課長補佐 影島 義三

学生課長	
	山添 均
	課長補佐 室伏 啓二

教務主事	
	教授 大島 茂
教務副主事	
	教授 村松 久巳
教務主事補	
	教授 遠山 和之
	教授 勝山 智男

学生主事	
	教授 佐藤 誠
学生副主事	
	准教授 大原 順一
学生主事補	
	准教授 野毛 悟
	准教授 鈴木 茂樹
	講師 平田陽一郎

寮務主事	
	教授 大久保清美
寮務副主事	
	教授 遠藤 良樹
寮務主事補	
	講師 古川 一実
	講師 藤井 数馬
	助教 永禮 哲生

教科主任	
国語	教授 坂本 信男
社会	教授 野澤 正信
数学	教授 遠藤 良樹
物理	教授 勝山 智男
化学	准教授 小林 美学
体育	准教授 渡邊志保美
英語	准教授 塩谷 三徳
ドイツ語	教授 大久保清美

学級担任		
機械工学科		
M	1年	渡邊志保美 (副) 西田 友久
	2年	松澤 寛 (副) 宮内 太積
	3年	手塚 重久
	4年	代表 井上 聡
	5年	新富 雅仁
電気電子工学科		
E	1年	駒 佳明 (副) 高矢 昌紀
	2年	住吉 光介 (副) 大澤 友克
	3年	真鍋 保彦
	4年	嶋 直樹
	5年	代表 佐藤 憲史
電子制御工学科		
D	1年	代表 塩谷 三徳 (副) 牛丸 真司
	2年	代表 能登路純子 (副) 江上 親宏
	3年	代表 長澤 正氏
	4年	大庭 勝久
	5年	川上 誠
制御情報工学科		
S	1年	坂本 信男 (副) 芹澤 弘秀
	2年	大石加奈子 (副) 藤尾三紀夫
	3年	宮下 真信
	4年	大久保進也
	5年	鈴木 康人
物質工学科		
C	1年	佐藤 崇徳 (副) 後藤 孝信
	2年	高津 浩彰 (副) 竹口 昌之
	3年	藁科 知之
	4年	大川 政志
	5年	稲津 晃司

平成21年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	連絡責任者	顧 問 教 員 名			
陸上競技部	渡邊志保美	野澤 正信	牛丸 真司		
ソフトテニス部	佐藤 崇徳	塩谷 三徳	山根 説子		
バレーボール部	種村 俊介	大庭 勝久	大石加奈子		
バスケットボール部	遠山 和之	藤井 数馬	松本 祐子		
野球部	手塚 重久	渡辺 敦雄	高矢 昌紀	高橋 儀男	松田 伸也
卓球部	稲津 晃司	高野 明夫			
柔道部	松澤 寛	西垣 誠一			
剣道部	谷 次雄	遠藤 良樹	澤井 洋		
サッカー部	駒 佳明	江上 親宏	永禮 哲生	中道 義之	
ラグビー部	井上 聡	鄭 萬溶	小林 隆志	高津 浩彰	
体操部	大久保進也	佐藤 誠	江間 敏		
水泳部	小林 美学	大澤 友克	西村 賢治	新富 雅仁	
合気道部	長谷 賢治	舟田 敏雄			
テニス部	竹口 昌之	川上 誠	古川 一実	後藤 孝信	平田陽一郎
スキー部	嶋 直樹	大原 順一	藤尾三紀夫		
ハンドボール部	野毛 悟	西田 友久			
弓道部	芳野 恭士	佐藤 憲史			
空手道部	宮内 太積	芹澤 弘秀			
バドミントン部	押川 達夫	住吉 光介	坂本 信男		
トライアスロン部	三谷祐一朗	能登路純子			
吹奏楽部	鈴木 茂樹	藁科 知之	蓮實 文彦		
囲碁将棋部	大川 政志	相良 誠	待田 芳徳		
ロボコン部	望月 孔二	鈴木 康人			
学生会	鈴木 茂樹	野毛 悟	種村 俊介	大庭 勝久	
文化サークル連合(科学技術)	真鍋 保彦	吉野龍太郎	村松 久巳	勝山 智男	
文化サークル連合(文芸・文学)	林 剛司	宮下 真信	長澤 正氏		

文サ連(科学技術) 機械工学・天文・環境問題研究会

文サ連(文学・文芸) 茶道・合唱・軽音楽・ESS

平成21年度 学校医・歯科医・薬剤師・カウンセラー

氏名	担当	本職
杉山 賢一	内科医	杉山病院
堰澤 敦	歯科医	せきざわ歯科医院
伊海 仁	薬剤師	壮健研究所薬局
宇治 友子	カウンセラー	オフィス友
房間 貞	カウンセラー	常葉学園短期大学

着任のご挨拶



学生みなさんに 伝えたいこと

機械工学科

松田 伸也

本年、4月1日付けで本学機械工学科に助教として着任しました松田伸也と申します。私は愛媛県出身の現在26歳であり、3月24日に愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程を修了して今に至ります。ずっと愛媛で暮らしていたため、慣れない土地で初めて一人暮らしをしながらの仕事に、てんてこまいの毎日です。しかしこの沼津という土地は愛媛の土地と非常に似ており、なじみやすい環境で、暮らしやすい土地だと感じています。

さて、セラミックスという材料をご存知でしょうか。身近なモノで例えると、ガラスやお茶碗のような焼き物などを総称して呼ばれています。セラミックスは熱や腐食などに非常に強いため、近年では様々な先進材料が積極的に開発され、航空宇宙分野やガスタービンなど大型機器への適用により高効率化が試みられています。しかしながらいまだ適用は停滞しているのが現状です。ここで、みなさんはお茶碗をどのように扱いますか？当然落

とさないように気をつけると思います。なぜなら「割れやすい」ことを意識的に知っているからです。すなわちセラミックスは金属などに比べて非常に割れやすいので扱うことが非常に難しく、その結果、適用が停滞しています。そこで私は、セラミックスをどのように扱えばいいのか、ということを経験的に材料力学、破壊力学および信頼性工学と呼ばれる学問を取り入れ、セラミックスの強さ、寿命の定量的な取扱い方について理論および実験からアプローチを行っております。

研究と聞くと「頭が良くないといけない」などのイメージをもたれているかもしれませんが、決してそうではありません。学校で習うような基礎的な概念を用いれば、意外とその現象を理解・考察することは十分可能ですし、いかに遠くに石を投げようと試みるかが研究には大事なことです。これは、研究に限らずこれから先、何に対しても必ず求められることなのでしょう。なぜこのようなことが言えるかということ、私もみなさんと同じ工業高校出身で、同じようなカリキュラムで学んできたからです。むしろ高専生であるみなさんの方が当時の私と比較すればレベルは断然上です。是非、遠くに石を投げることを試みてください。

最後に、まだまだ未熟者ではありますが、微力ながらもがんばりますのでよろしくお願いいたします。



着任にあたっての抱負

制御情報工学科

松本 祐子

本年4月1日付けで制御情報工学科に助教として着任いたしました松本祐子と申します。私は平成13年度に本学制御情報工学科を卒業し、東北大学工学部へ編入しました。そのまま東北大学大学院理工学研究科航空宇宙工学専攻に進学、3月に学位を取得して大学院を修了しました。生まれは浜松市浜北区で天竜川の近くです。そこで中学校まで過ごし、高専の間は長泉・三島に住んでいました。大学では7年間仙台で暮らし、静岡県にいる間は緑のなかった雪のある生活を経験しました。今回再び沼津へ戻ってきて、やはり東北と違って暖かいなと感じます。

制御情報工学科では主に工学実験や流体力学を担当し

ます。流体力学は水や空気の流れを扱う学問です。私は大学院時代に流体力学のシミュレーションを学んできました。そもそも大学へ編入学して流体力学の勉強をしようと思ったのは、高専で流体力学の講義を受け、興味を持ったからでした。その講義を自分が受け持つと思うと、不思議な縁を感じるとともに身の引き締まる思いがします。既に数回の講義を行いました、準備には想像以上に時間がかかり、自らの未熟さを感じるとともにこれまで教わってきた先生方のご努力に頭が下がります。少しでも諸先生方に近づけるように日々精進していきたいと考えています。

また、部活動ではバスケットボール部（女子）の顧問をしております。何度か学生さんに混ざって練習に参加しましたが、若い人たちの体力についていけず、すぐに息切れがしてしまいました。密かに体力作りをして、一緒に練習をするのが今の目標です。

なにもまだまだ未熟者ですので、皆様にはご指導ご協力願うことが多々あると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



高専生活を送るに あたって

物質工学科
山根 説子

本年4月1日付けで物質工学科に助教として着任いたしました。私は東京高専を卒業し大学編入を経て、3月まで東京医科歯科大学付属生体材料工学研究所で博士学生として研究に従事していました。本校ではこれまでの研究を基に、有機物／無機物ハイブリッド薬物担体や骨代替材料など、生体材料の合成を中心とした研究を行うことを考えています。

研究・技術開発では色々な分野の知識が必要となります。特に、最近では多数の学問が融合した学際領域の研究が盛んに行われています。例えば、上記の生体材料の研究に限っても材料合成・評価・応用を行うにあたり、色々な分野の知見から研究が成り立っていることが想像できます。だからこそ、私達は学校で教わる学科の専門

分野、化学、数学、物理、英語など全ての科目を専門領域と区別して扱うのではなく、基礎科学として捉えて応用しなければなりません。私は「基礎科学」として学生のみなさんが自ら専門領域の垣根を越えられるような授業をしたいです。そして実験や研究を通じて、日々学んできた「基礎」が力になる瞬間を体験してほしいと思います。

勉強以外では、学生のみなさんには部活動や寮生活、色々な課外活動に積極的に参加してほしいと思います。仲間とのコミュニケーションや、協力して何かを成し遂げる経験は、人間としての成長につながると思います。学生のみなさんが「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえる」ことができるよう、勉強や課外活動を精一杯サポートしていきたいです。

文章で思いを述べるのは簡単ですが、なかなか思った通りに実行できません。まだまだ未熟者ですが、転んだら石でも拾って起き上がる！をモットーに教育・研究を行ってまいります。これから、どうぞよろしくお願いたします。



沼津高専に復帰して

教養科
西垣 誠一

平成16年度に全国の国立高専が一法人の国立高専機構として法人化され、それを機に、国立高専間の教員人事交流が行われることになりました。私はその第1期派遣教員の一人として、平成18年度から平成20年度まで、鳥取県にある米子工業高等専門学校に勤務し、この4月から沼津高専に復帰しました。3年間不在にしますと1年生だった学生も5年生になっており、対学生ということで言えば、ほとんど新任教員状態です。ですから授業の方もまだ手探り状態で行っています。それでも多くの教職員の皆様に温かく迎えていただき、スムーズに復帰できたと感謝しております。

さて、他高専に勤務したことは私にとって大変有意義なことだったと考えております。同じ工業高等専門学校

といっても、学生の気質や教育のシステムそして学校運営の手法などいろいろ異なる点が多くありました。これらのことを身をもって体験できたことは貴重なことでした。そして沼津高専にいただけではわからなかったようなことに気付いたりもしています。例えば、必ず挨拶をするよう指導されている1年生を除いても、多くの学生が廊下などですれ違うとき、きちんと挨拶をします。3年前までは実際に知っている学生が多くいたものですが、挨拶をされてもある意味当たり前と感じていたのですが、今こうして知らない学生がきちんと挨拶する姿を見て、ちょっと感心しています。このように新たな目で沼津高専を見つめ直すことができていることも事実です。

着任のご挨拶としては何かまとまりを欠く文章になってしまったような気もしますが、3年間の米子高専での経験を生かして、今後の沼津高専のために努力していきたいと考えております。

最後になりましたが、3年間お世話になりました米子高専の教職員の皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



沼津高専に着任して

教養科
高津 浩彰

私は、このたび高専間の人事交流制度を利用して沼津

高専にお世話になることになりました。昨年まで、15年間豊田高専で教員として生活してきましたが、縁あって沼津高専に4月から勤めることになりました。担任、学生生活支援室、授業、遠距離通勤と豊田では経験しなかった生活を送っており、とても新鮮で充実した毎日と言えます。

沼津高専に来て、感じたことが3つあります。

1つ目は、周りの自然の変化です。毎日、富士山を見

ながらの通勤や授業は、いままでに経験したことのないような爽快感を感じさせてくれます。これほどまで天候の変化、雲の動きや風向きの変化などを感じながら授業を実施した経験はなく、新たな自然経験に悩まされながらもそのすばらしさに感化されています。

2つ目に、仕事面で感じたことがあります。高専といっても、1つ1つが独自の運営をしており、その運営の仕方には違いがあることです。基本的なことは同じではありますが、現在は、新任の皆さんと同じように、周りの教職員の皆さんから、時には学生さんからいろいろ教えていただき改めて高専のシステムとその良さを理解しようと日々研修をしています。



～簡単な自己紹介も 含めて～

教 養 科
澤 井 洋

4月ドキドキ、5月バタバタ、6月だんだん…？この3ヶ月における自分の客観的な様子だと思います。大変失礼致しました。今春、着任いたしました教養科の澤井と申します。専攻は数学です。

簡単な自己紹介から。19〇〇生まれ。石川県出身。趣味は料理。ただし、一人で手の込んだものを作って、一人で食べて、一人で後始末する後姿は、榎原敬之の歌詞にも見えそうです。

中学生の頃に勉強した接弦定理に感動し、数学者を志しました。高校を卒業後、立命館大学に進学。中島和文先生に師事し、数学の厳しさを学びました。その後、大阪大学大学院に進み、坂根由昌先生だけでなく、多くの

3つ目に、高専の共通点として感じたことは、今まで全国の高専を出張などでたくさん訪問させていただきましたが、どこの高専も優秀な学生がたくさん在籍していて、沼津高専でも同様のことを感じました。素材のよさを生かしていくことが教員の役割とっておりますので、沼津での仕事もやりがいのある仕事とっております。

このように、新しい体験を通して、高専の共通的部分を理解しながら、沼津の自然の空気と沼津高専の校風という新鮮な空気をいっぱい吸って、豊田高専に戻りたいと思います。1年間という短い間ではありますがみなさんよろしく申し上げます。

諸先輩方に師事しました。数学の楽しみだけでなく、数学や研究に対する姿勢を学びました。そして、〇年にわたるポストドク時代を経て、沼津工業高等専門学校に着任致しました。

まだまだ日は浅いですが、沼津高専の印象としては、高い目標をもって入学してきているだけあって、優秀な学生が集まってきていると思います。また、当校の教育理念でもある‘人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ’にも共感を覚えます。特に、‘人柄がよい’が印象的です。卒業後に、学生たちが社会に迎えられよう技術者になれるよう、学習面だけでなく、人格形成の面でも、微力を尽くしたいと考えています。

静岡県民の方は、意識したことはないと思いますが、沼津からは富士山が見えます。ご存知のとおり、富士山は日本一の山です。日本一の山に見守られながら、学生だけでなく、私も成長して参りたいと考えております。どうかよろしくお願い致します。最後まで読んでいただいた方々に感謝しつつ、私の着任の挨拶を終わらせていただきます。



礎

総合情報センター
中 道 義 之

本年4月1日付けで総合情報センターに着任しました中道義之です。静岡市の生まれで沼津高専の電子制御工学科および専攻科を卒業・修了し大学院に進学しました。大学院を修了後は阿南工業高専で教員を務めていましたが、縁あって沼津高専にお世話になることになりました。

講義は1年生の「情報処理基礎」を担当しています。情報社会といわれて久しい現在ですが、ますます情報やコンピュータの重要性は高まってきています。講義をは

じめて2ヵ月ほどたちますが、多くの学生が熱心に受講してくれており、頼もしく感じています。

研究は「人工生命」と「情報システム」に係わる分野に取り組んでいます。人工生命とは、生命に特徴的な現象をコンピュータ内での再現を試みることによって生命の本質を理解し、また工学的に応用しようとする学門です。具体的には蟻が協力する仕組みや生物の進化といった現象について研究しています。情報システムに関してはe-Learningシステムの構築や障害者用のインターフェースの開発等を行っています。

私は、自分の礎となるものの多くを高専で学びました。同じように、沼津高専の学生にも充実した学生生活を送ってほしいと思います。その支援となれるように熱心に教育・研究活動に取り組みたいです。これからどうぞよろしくお願いたします。

新入生から (入学にあたり)

沼津高専に入学して

電子制御工学科1年 鈴木 克真

僕は、沼津高専電子制御工学科でたくさんの知識や技術を身につけ、自分の進みたい道を歩めるように頑張りたいと思います。また、僕がこの学校に入学したのは、自分で決めたことなので、5年間規律ある生活を送り、途中であきらめることなく、卒業できるまで毎日勉学に励みます。

勉強面では、得意な数学の学習を高専でさらに考えを深め、中学校では苦手としていた英語も、苦手意識を失くすことができるように自己を磨いていこうと思います。

寮生活では、自分よりも経験のある上級生の人たちの生活をしっかり見て、周りの人に迷惑をかけることのない充実した生活を送りたいと思います。毎日の時間を有効に使い、勉強時間をしっかり確保し予習と復習をしっかりと行いたいと思います。勉強面だけでなく精神面でも



大きく成長するために、敬語を使いこなし、目上の人に対して礼儀をわきまえたり、友達をたくさん作りいろいろな面で互いに切磋琢磨したりしていきたいです。

また、寮生活ということで親元を離れて生活するという初めての経験をし、親のありがたさを身にしみています。特に洗濯は自分でしたことがなかったので、4月の頃は濡れた洗濯物が冷たいと感じることがありました。冬になるとより冷たいと感じることが多いと思い、毎日洗濯してくれていた親に感謝をしています。僕が今高専生活を送ってられるのは、両親をはじめとする親戚の方、友達、中学校の先生などたくさんの人の支えによるものだと思っています。そういった人たちに対する感謝の気持ちを忘れずに生活し、これからも感謝することを大切に頑張りたいと思います。

5年間という長い高専生活ですが、短いと感じるくらい充実した生活を送り、この5年間が一生の宝となるように日々鍛錬し、自分に厳しく、人には優しくをモットーに生活します。



沼津高専での目標

制御情報工学科1年 古木 崇裕

父親がバイクの部品を造る仕事をしているので、中学校へ入学した頃には、工業に関する高校へ行きたいと思っていました。しかし、その頃は沼津高専へ行きたいとは思っていませんでした。僕が沼津高専へ行きたいと思った理由は、恩師と言える先生に出会ったからです。数学の先生で、おもしろい問題や難しい問題を個人的に出題してくれたり、人に教えることが好きという、僕の性格を理解して、教える時間を作ったりしてくれました。おかげで僕は、数学の難しい問題を時間をかけて解いた時の嬉しさを知ることができました。そして、数学が好きになりました。さらに、沼津高専の存在を教えてくれた

のも恩師でした。

恩師に言われて、一日体験入学や高専祭に参加して驚いたことは、高専生一人一人がしっかりしているということです。他校では、学校の案内や説明は先生がやっているけれど、高専では学生がしてくれました。また、服装などが自由なのにあまり乱れていないことにも驚きました。僕もしっかりとした大人の技術者になりたいと思い、沼津高専を受験することを決心し、猛勉強しました。恩師は受験勉強のときにも、数学の問題を出題してくれたので、勉強が捗りました。

沼津高専に入学してわかったことが2つあります。

1つめは、寮で勉強できる時間が少ないということです。普通高校より勉強する内容が難しいので、自主的に勉強しなければなりません。しかし、勉強できる時間が少ないので、時間を無駄にしないように計画的に勉強したいと思います。2つめは、学年に関係なく仲が良い人

が多いということです。寮生活や部活動、行事などで知り合って仲良くなっていると思うので、僕も行事などに積極的に参加して先輩と交流したいです。

僕の将来の夢は、簡単に操作できる介護ロボットの開発と、今ある電気機器を、機能はそのまま地球環境を害さないように改善することです。だから、授業で習っ



たことだけではなく、今ある介護ロボットや地球環境のことなどを学びたいと思います。

5年間、勉強や部活動、行事など全力で取り組むことで、しっかりとした大人になって沼津高専を卒業したいです。そして、家族や恩師に恩返しをしたいです。



卒業生から



社会人への準備

機械工学科37期生
浜野 光 太

就職活動中の学生へ向けた会社説明会で、学生の方から「学生の間にしておくべきことはなんですか」という質問を受けることが多々あります。はっきり言って、勉強に関しては学校で学ぶことよりも会社で学ぶことが多いです。製品として売れる設計（ローコスト化、意匠、競合他社との差別化）、適切な設計（加工・組立て性、公差、材料の選定）というのは、学校で学ぶことが残念ながらできません。やはり、会社での実践を通じて、製品の設計手法を学ぶことができます。

だからと言って、学生の間は勉強しなくていいかというところではありません。会社では率先力が重宝されます。機械設計で言えば、CAD操作（3DCADで設計することが多いです）、製図の知識（寸法記入、公差、表面粗さ）や材料力学（応力、たわみなどの基本）の知識は日常の業務の中でよく使います。振動の評価試験を行えば振動工学、騒音試験を行えば音響工学、熱試験を行えば、熱力学・伝熱工学といった具合に都度知識が必要になっ

てきます。これらの知識を全て覚えているのが理想なのでしょうが、それはなかなか難しいと思います。しかし、高専で使った教科書を参考書として使えば、およそどこにどんなことが書いてあったか覚えており、大切なところはアンダーラインまで引いてあるので便利です。教科書は後輩にあげたり捨てたりせずしておくのと、意外な場面で使えるかもしれません。

また、社会人になると自由な時間が増え、旅行、読書、資格試験の勉強、スポーツなど様々なことができます。学生の間から趣味を無理に見つける必要はありませんが、社会人になって趣味があると、仕事で行き詰ったときやモチベーションが下がったときの良い気分転換になります。何より『仕事=人生』ではつまらないので、色々なことにチャレンジしていくことが楽しい人生を送るためには必要なのかもしれません。

最後に「何のために勉強するのだろう」という疑問を持ったことはありませんか。私もありますが、勉強をして先輩を追い抜くことが『技術の進歩』になると思います。テレビは薄型化していき、携帯電話は高性能化しています。これは先輩の開発したものを追い抜いたからこそより良いものができ、さらに後輩に追い抜かれることでまた技術は進歩していきます。人々の生活が豊かで便利になるよう先輩を追い抜いていきましょう。（でも後輩には抜かれたくないです。）



近況報告

電子制御工学科15期生
小野田 晃久

私は、高専の電子制御工学科を卒業後、同校の専攻科を修了し、現在は浜松市にある半導体設計会社のソフト開発部門に務めています。主には、社外で通信機器ソフトの開発、評価を行っています。私自身、学生時代に研究で組み込み機器をネットワークに繋げる研究をしていたこともあり非常にこの頃の知識が役立っています。また、私がソフトウェアの開発・評価に関わっている通信機器も組み込み機器に分類されます。

組み込み機器とは例えば、白物家電や携帯電話、デジタルカメラ、車載機器など私たちの身近に存在し、コンピュータが内蔵され、ソフトウェアで制御される機器のことを言います。

私が組み込み機器のソフト開発方面に進みたいと考え

るようになったきっかけは、電子制御工学科3、4年で製作したRT-LinuxをOSとして搭載する「MIRS」と呼ばれる自律ロボットの開発でソフトウェアを担当したことです。このロボットを動かすためには、センサから得られた情報をコンピュータが理解できる形に変換するソフトや、モータを動かすソフトが必要となります。元々、OSやデバイスドライバといったハードウェアに対してアクセスするソフトに興味を持っていたため、この開発に携わるのは非常に有意義で楽しい時間でした。

研究室に配属後は、興味を持った μ ITRON仕様のOSをはじめ、ハードウェアやネットワーク等の勉強を自由にさせていただけました。「ITRON仕様TCP/IPプロトコルスタックへのIPSecの実装」を研究テーマとして、現在の業務に繋がるようなソフトウェアの開発をしました。このときには、まさか研究に直結する業務に付くとは思っていなかったもので、配属が決まったときには非常にうれしい驚きを感じました。

皆さんも今勉強されていることが将来の仕事に直結する可能性は十分にあると思います。今の勉強をきっかけに、自分のやりたいことを追求してください。

留学生から

はじめまして、ウィエットです

電気電子工学科3年 ウォンターウォン ウィエット

みなさん、こんにちは。私はラオスから来たウィエットです。まず、少しラオスの紹介をしたいと思います。ラオスはインドシナ半島に位置しています。インドシナ半島はラオス、タイ、ベトナム、ミャンマー、マレーシア、カンボジア、シンガポールを含んでいます。ラオスの国土面積は236,800km²で、70%は山です。人口は630万人で、東京より少ないですね。

私は日本へ来る前にラオスの国立大学で経済を勉強していました。もし、今、ラオスで勉強していたら、私は大学の4年生になると思います。しかし、私は日本に来て勉強したかったため、必要な科目である数学と物理を自分でがんばって勉強しました。大学の授業では物理がありません。だから授業がないときには、図書館に行き、数学と物理の本を読んだり借りたりしました。友達と一緒に勉強もしました。2007年6月に日本に来るための最初の試験が行われました。試験は全部で4回ありました。1回目はラオスの大学が試験問題を作りました。試験の文章は英語でした。1回目の試験を受けてからだいたい2週間くらいで結果が張り出され、200人が合格しました。2回目の試験は日本からのものでした。試験の時も日本人が教室にいました。今回も2週間くらいで結果が

張り出されましたが、22人しか合格していませんでした。2007年8月には、3回目の試験ということで、日本の大使館で英語と面接の試験が行われました。その後3週間くらいで結果が出ました。合格した人は19人でした。最後である4回目の試験は、2008年1月15日に、他の国の受験者の成績とを比較した結果、17人が合格しました。私もその中に含まれていることを知り、とてもうれしかったです。

ところで、なぜ私が日本に来たかったのか、たぶん、みなさんは知りたいことと思います。私は小さな子供時代から高校生時代までずっと日本のアニメーションを見ていました。一番好きなアニメーションはドラえもんです。そんな中、大学で勉強しているとき、私は日本人のボランティアの方と出会い、日本についていろいろなことをその方と英語とラオス語で話しました。話を重ねていくうちに、私は日本に行きたいと強く感じるようになりました。日本人と一緒に勉強をしたかったのです。日本の学生とラオスの学生とはどのようにタイプが違うのか知りたかったのです。また、日本の教育システムがどういうものであるか知りたかったのです。

2008年4月2日に日本に来ましたが、驚きがいっぱいでした。例えば、食べ物や服の値段がとても高かったのです。さらに、朝の電車の中は人が大勢いました。私の国では電車がありませんので、そういう光景を見たことがありません。とても驚きました。日本に来てから学校に行き、まずは日本語と英語と数学の試験を受けました。

翌日には、誰がどの教室で勉強するか、成績によって分けられました。4月から8月までは、授業は毎日6時間ありました。9月になる前には、8月の試験の結果により再び教室が分けられました。今回から、数学と（物理、化学）と（物理、情報）と英語も授業に入りましたので、日本語の授業が少なくなりました。

その学校も3月に卒業し、2009年3月25日に沼津高専に来ました。当日は先生方が三島駅まで出迎えに来てくださって、私はとてもうれしかったです。そして先生方は、私をいろいろなところに連れて行ってくださいました。例えば、買い物をするための店や外国人登録手続のための役場などです。本当にありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

沼津高専に来たころは、東京で同じ仲間だったラオス

の友達とも会えず、さらに、いろいろな面で慣れていないため、毎日の生活が大変で寂しく、ときどき泣きそうになりました。しかし、今ではいろいろと慣れてきましたから、大丈夫です。私は日本へ来てからラオスの料理はあまり食べていませんでしたが、4月25日に留学生担当の事務職員の方がタイ料理の店に連れて行ってくださいました。ラオスとタイ料理は同じです。ですから私はたくさん料理を食べました。とてもおいしかったです。ありがとうございました。

最後に、私がラオスで勉強していた科目と現在勉強している科目とが全然違うことから、先生方が心配してくださいました。お気遣い、ありがとうございます。私は大変だと分かっていますが、がんばっていきます。

日本人は親切ですね。だから私は日本が大好きです。

日本で1年間の生活

電子制御工学科3年 ゲン クアン フィ

私は電子制御工学科3年のフィです。私は去年の4月にベトナムから日本に来ました。よろしく願います。

さて、私は子どもの頃から海外で勉強したいと思っていましたが、留学することは非常に学費と生活費がかかるという問題があるので、留学生になることはできないと思っていました。しかし私は大学の2年生のときに、夢を実現するためのいい機会を得ることができました。日本で勉強している友達が、私に日本の文部科学省の奨学金のことを教えてくれたのです。日本の教育制度はとても良いと思ったので、日本へ行く決心をしました。私は頑張って勉強して、日本へ行くための試験に合格しました。合格を知ったとき、私は嬉しくて泣きたいほどでした。去年の4月に家族と別れるとき、私は日本で一生懸命頑張ると約束しました。それから新しい生活が始まりました。

はじめて成田空港に降り立ったときはもう4月になっていたのにとても寒く感じてビックリしました。私の国の気候と違って、日本の4月の気温は低いです。それと胸がときどきしていたから、体が震えてしまいました。そのときに様々なことを考えました。気候だけでなく、日本の生活に慣れることができるだろうか、とても心配でした。

高専へ行く前に日本語を勉強することになっていました。東京の日本語学校で1年間、日本語はもちろん、数学、物理、化学の勉強をしました。それ以外に日本語学校の先生は日本の文化や生活習慣についてもたくさん教えてくれました。日本人の最初の印象は「面白くて親切」でした。先生たちもとても、とても親切だと思います。おかげで日本の生活にだんだん慣れてきました。

いろいろな国から日本へ来た友達と一緒に勉強して、遊びました。楽しい思い出も作りました。日本はきれいなところがたくさんあります。私は時々東京タワーに登って、東京の景色を見ました。特に夜になると、そこから東京の夜景が揺らいで見えて綺麗だと思いました。

日本へきて、いちばん印象的なのは日本の桜です。国にいたとき、私は日本といえばすぐ桜を思い出していました。日本に来たときも桜がたくさん咲いていました。桜が満開で、とても綺麗で驚いてしまいました。

日本に来てから1年が過ぎて、今年の4月に私は沼津高専に来ました。沼津市は静かで平和です。私は沼津が一番好きです。私は寮に入って、4階に住んでいます。ここからは富士山がよく見えます。日本人の友達は寮の生活のことを教えてくれますので寮での新しい生活にも慣れてきました。毎日5分で学校へ行くことができます。通学の時間が短いので便利でとても嬉しいです。ただ、日本語がまだ上手にならないので授業はちょっと難しいと思います。しかし、将来のために今私は思いきり頑張っています。

寮生会活動について

寮生会活動について

平成21年度沼津高専寮生会 寮長
濱村 功

桜舞い散る4月、新入生の入学と共に寮生総勢563名による寮生活が幕を開けました。

平成21年度の寮生会では「build」というスローガンを立てました。「build」とは、建物を建てる・造るという意味のほか、人格を形成するといった意味もあります。つまりこのスローガンには、寮生会活動を通して自分自身を向上させ、素晴らしい寮を築いていこうという思いが込められています。

さて、ここで私たちの学びの場を3つの側面から紹介します。

「企画力」…寮祭や夏祭りを始めとした様々な企画があります。企画の準備や実施による人との関わりからコミュニケーション能力が身に付き、親しい友人を得る機会にもなります。

「学力」…毎日最低2時間の学習時間があり自主的に勉強を進める習慣を身に付けます。また、寮の先輩が勉強

を教える「マテカ」という勉強会もあり、塾に通う必要がないよう日々の学力向上に努めています。

「生活力」…階毎で週1回行う階ミーティングは、情報伝達や意見交換の場として主に礼儀や常識を身に付けます。

以上のような活動を通して、寮生一人ひとりが毎日を充実させる努力をしています。

7月現在、寮はとても落ち着いた雰囲気です。

寮祭は生憎の風雨の中でしたが、準備を無駄にするまいという寮生の活気がひしひしと伝わる大変明るいものになりました。寮祭が終わると、前期中間テストに向け寮全体が勉強の雰囲気に包まれます。マテカも活発になり、一人ひとりが真剣に机に向かう光景が多く見られるようになりました。祭りに勉強にとそれぞれに真剣な姿はとても生き生きしていて気持ち良いものです。

今後は夏休みに向けた大掃除があり、各棟を隅々まで清掃します。大変な中にもやり甲斐や大きな達成感があり、清々しい気持ちで夏休みを迎えることができます。

寮生の保護者の皆様、夏休みには一回り成長した我が子の姿を見ることができると思っていますので、今後も私たち寮生会の活動にご理解とご協力のほどよろしく願っています。



教育後援会から

会長就任挨拶

教育後援会会長 (E5) 海野 誓 志

本年度の会長に就任しました海野です。御父兄の皆様
の代表として重責を感じておりますが、この大役を誠心
誠意努めさせて頂く所存ですので、今後1年間ご指導ご
協力の程宜しくお願いいたします。

教育後援会では、沼津高専の教育の発展振興に寄与し、
併せて会員と学校の親睦、連絡の緊密化を図ることを目
的として活動しています。活動内容と致しましては、学
校教育の発展に関する助成、学生の課外活動に関する助
成、学生、教職員の福利厚生に関する助成等を行ってい
ます。そのような事から、沼津高専の学生を学習面、課
外活動等幅広くバックアップまたはサポートをする活動
をしています。

私は理事として4年間、沼津高専を見てきましたが、
とても素晴らしい学校と思っています。優秀な技術者を
育てるなら、沼津高専以外ないと確信しています。柳下
校長先生を始めとする教職員の方々の教育の賜物と言っ
ても過言ではありません。

今、世間では、昨年のアメリカを中心としたサブプ
ライムローン問題をきっかけに金融危機が起こり、日本は
製造業を中心に業績悪化から、派遣切りが発生して雇用
が悪化しています。しかし、そのような中でも確かな技
術力のあるトヨタやホンダから発売しているエコカーが
非常に売れています。どんな時代でも技術力のある企業
には、優秀な人材が必要とされています。沼津高専は、
技術者として必要な技術力を基礎から習得できる学校で
す。学生は多くの実験を通して、レポート提出や、プレ
ゼンテーションを行って、技術力、表現力を日々磨いて
います。そんな沼津高専の素晴らしい特徴を以下に述べ
たいと思います。

第一に寮生活

1、2年生の寮生活は、自立への第一歩です。親元を
離れて初めての共同生活をして、協調性をみがき、後輩

の面倒を見る思いやりのある学生に育てることができま
す。

第二に学力の向上

塾を必要とせず、第1学年から専門教育がスタートす
るので他の学校教育では得られない高度な専門知識を習
得できます。

第三に進学と就職

有名国立大学への進学率と大企業への就職率が例年と
てもよい状況です。しかし、今年就職については少し
芳しくない状況ですが、学生は、希望する企業へチャレ
ンジしているところ です。

第四に活発なクラブ活動

高専と言えば、有名なロボコン部がありますが、運動
部でもバスケットボール、卓球、水泳等のクラブ活動で
高専間の全国大会に出場して成果を出しています。

第五に企業との共同研究

毎年、企業より共同研究の委託を受け、成果を出して
います。

第六に学費

学費は、本科、専攻科とも国立大学の1/2、私立大
学の1/4とも言われています。

上記のように、沼津高専の素晴らしい特徴を挙げれば
たくさん出てきます。後援会では、頑張る沼津高専生を
全面的にバックアップまたはサポートしていきたいと思
います。

それから、最後になりますが、もっともって
沼津高専を素晴らしい学校にするために、受験生を増や
したいと思います。数学や理科が好きな中学生、そして
物づくりや実験が好きな中学生が知人や近所の方にいま
したら、是非この学校の紹介をお願いしたいと思います。
そして、8月の1日体験入学に参加して頂き、この学校
に興味を持ってもらい、最終的に沼津高専への受験に結
びつけていけたらと思います。この沼津高専の発展のため、
今一度御父兄の皆様のご理解とご協力をお願いいた
します。

1年間よろしくお願いいたします。

入学に際して

電子制御工学科1年 保護者 田代 一 江

入学・入寮の日はとてもよい天気、満開の桜の花が
入学を祝ってくれているかのようでした。

当日は、正門から入って受付に行くと、上級生が受付
をしてくれました。まず、そのしっかりとした対応に感

心しました。その後、また別の上級生の的確な車の誘導
とさわやかな挨拶に感動しました。指示に従い、寮の前
に車を止めると、数名の学生が荷物を受け取り、てきぱ
きと部屋に運んでくれました。そのあまりの手際のよさと
丁寧な受け答えに驚くと共に、息子の入寮への不安は一
気に吹き飛び、大きな安心を感じました。そして、「もし
しかしたら、我が子も1年後にはこんな立派な上級生に
なれるのかしら。」という期待に胸がふくらみました。

息子は、小さい頃からものづくりが大好きで、小学校

の頃には学校に行く前に毎朝工作をしているような子でした。小さいころの夢は「大工さん」、今の夢は「人のためになるロボットを作ること」だそうです。そんな息子ですから、進路は最初から迷わず高専を選び、それはずっと変わることがありませんでした。15歳にして、もうやりたいことがはっきりしている息子を、自分の同じ年頃と比べて頼もしく感じ、ぜひ応援していきたいと思っています。

入学にあたって

制御情報工学科1年 保護者 稲本 真奈美

「高専に入りたい。」息子が最初に進路の事を口にしたのは中2の2学期でした。高校の選択は人生における最初の分岐点となるわけですし、特に専門校となると自ずと進む道は決まってきます。「よく考えてね。」と言っただけの息子が今一番勉強したい事、将来の夢、高専の教育内容等どれをとってもピッタリの選択ではないかと内心喜びました。幸いにもご近所に高専に通われている方がいたのでいろいろな話を聞くことができ、中3になる頃には息子の意志は確固たるものとなっていきました。ただ私の中に「寮生活」という一抹の不安を残したまま。

我が家では3人の子供が揃って卒業と入学、そして2人が引越すと慌ただしい中、落ち着いて話をする間もなく高専の入学式を迎えた為、家に戻ってホッとしたのと同時に心配の種が頭をもたげてきました。「朝起きられる?」「好き嫌いしないで食べられる?」「洗濯は?」「掃除は?」「何より部屋のお友達とはうまくやっけていける?」他愛ないことばかりです。こんな私の心配を知ってか知らずか、毎回電話の最後には落ち着き払った低い声で「まあね、大丈夫。」と言うのです。

これから5年の間にはいろいろなことがあると思いますが、学校生活・寮生活・部活動などのいろいろな場面で、他を思いやり進んで行動できる人間になってほしいと思います。そして、沼津高専の目指すように、人柄のよい優秀な技術者となって、世の期待に応えられるような大人に育ててほしいと願っています。

どうぞ皆様、よろしく願いいたします。

しかし、1ヶ月以上経つとこれらの心配を和らげられるような事実も見られるようになりました。牛丼が食べられるようになったとか、机の上や本棚など片付けていましたし、毎日ではないけれど洗濯もしているとの事(先日ソックスの片方が2足分落とし物入れの中に入ったという事実は見逃せませんが)、また寮の内外では先輩や先生、父兄の方を見かけるとはっきりとした大きな声で挨拶をし、頭を下げていました。しかも自主的に。何せボソッと挨拶をして頂くだけの1ヶ月前の姿はかけらも無かったのですから驚きましたが、これこそ寮生活の成せる業と密かに拍手を送りました。おまけに運動は避けたいと公言していた子が合気道部に入ったとの事、部活の様子をそれは楽しそうに話をするのです。「心も身体もたまには頭脳も寮でめいっぱい鍛えておいで!!」私は力強いエールでそっと息子の背中を押しました。

5月の半ば息子は16歳になりました。昔で言えば元服の時期です。予定より3年も早く親元を離れた16歳の少年は、親が思うよりはるかに逞しくしっかりと自らの道を歩き始めているのだととても嬉しく思いました。

今年は穏やかな春の日、満開の桜と共に入学式、入寮式を迎えることができました。これから高専での5年間いろいろなことがあると思いますが、よく学び、よく遊び、大勢の友達と関わり、有意義な学生生活を送って欲しいと願っています。

事務部から

平成21年度後期分授業料の免除および徴収猶予について

経済的理由により授業料の納付が困難で、学力優秀と認められる学生について、平成21年度後期分授業料免除および徴収猶予の申請を受け付けています。希望される場合は、下記のとおり申請してください。

なお、平成21年4月1日以降に、懲戒処分（停学以上の処分）を受けた学生は免除の対象とはなりませんので注意してください。

記

提出締切日 平成21年9月30日(水)

提出書類 授業料免除願、授業料徴収猶予願、家庭調書、経済状況に関する調書、所得の証明書（源泉徴収票、確定申告書の写し等）、住民票 等

※所定の様式がありますので、申請を希望される場合は、学生係へ書類を取りに来てください。

- 注意事項**
- 1 申請書類提出の際は、事前に保護者から学級担任に、申請理由を電話または手紙で連絡をお願いします。
 - 2 提出書類は、学級担任の確認・押印後に学生係へ提出してください。
 - 3 ご不明な点等ございましたら、学生課学生係（☎055—926—5734）にお問い合わせください。

平成21年度 沼津高専1日体験入学のお知らせ

本年度も、中学生、保護者及び中学校の先生方に沼津高専をより深く知っていただくため、下記のとおり1日体験入学を実施します。

本校の1日体験入学は、アメリカのオープンハウスを参考に、中学生その他の参加者に、沼津高専を自分の目で見ていただき、進路決定において目的意識を持ち、本校への進学意思を固めていただくことを目的としました。毎年実施しているアンケート結果によると、参加生徒、保護者のほとんどが、進学したくなった、楽しかったと満足していただくことができ、当初の目的を達成することができました。

保護者及び中学校の先生方に好評を得ております進学

説明会は、午前と午後の2回実施します。

1日体験入学の内容は、各学科及び総合情報センターの実験、実習等の公開や学生寮、図書館その他の施設見学、学校説明会等です。この1日体験入学によって、毎年多数の生徒が本校を知り、入学を志望、決意するものと思われれます。本校在籍の学生及び保護者の皆さん、ぜひ出身中学校の恩師・後輩・又は知人の方々を通じ本校体験入学への参加をお勧め下さるようお願いいたします。

なお、参加申込書は、静岡・山梨県の全中学校及び神奈川県の一部の中学校に送付され、申し込み期限は7月17日(金)となっていますが、お申し込みがなくても参加いただけます。

1日体験入学

- 記
1. 日 時 平成21年8月1日(土) 9:00~15:00
 2. 場 所 沼津工業高等専門学校全域
 3. 実施内容

(1) 進学説明会	(2) 進学相談コーナー
(3) 各学科・専攻科紹介	(4) 学内施設紹介
(5) 学生会企画及びクラブ紹介	(6) 学生寮食事体験
(7) その他	
 4. 1日体験入学ホームページアドレス
http://www.numazu-ct.ac.jp/nct_hp_new/opencampus/lecture.html

平成21年度(8月~3月)行事予定表

平成21年

8月	1日(土)	1日体験入学 近畿東海北陸信越弓道大会	
	6日(休)	編入学試験	
	11日(火)	編入学試験合格発表	
	18日(火)	全国高専体育大会 (19日まで)	
	22日(土)	全国高専体育大会 (28日まで) 中学生ロボコン静岡県大会	
	24日(月)	全国高専将棋大会 (26日まで) 編入学予定学生説明会	
9月	28日(金)	寮生リーダー研修 (30日まで)	
	1日(火)	授業再開 防災訓練 (1・2時限) 専攻科前期試験 (14日まで)	
	5日(土)	校内英語スピーチコンテスト	
	12日(土)	進学説明会 (静岡市)	
	13日(日)	進学説明会 (浜松市)	
	15日(火)	専攻科外部単位認定申請 (17日まで)	
	18日(金)	専攻科前期終了	
	23日(水)	進学説明会 (小田原市)	
	24日(休)	前期末試験 (30日まで)	
	26日(土)	進学説明会 (島田市)	
	28日(月)	専攻科後期授業開始 専攻科金曜授業 専攻科ガイダンス (10月2日まで)	
	10月	30日(水)	専攻科前期修了式
1日(休)		後期授業開始	
2日(金)		月曜振替授業	
7日(水)		4年工場見学 (9日まで)	
11日(日)		ロボコン東海北陸地区大会	
16日(金)		2年特別研修	
20日(火)		体育祭・学生総会 進学説明会 (本校・教諭対象) 専攻科月曜授業	
24日(土)		3・4年TOEICテスト	
11月		2日(月)	1~4年文化講演会 (午後)
		5日(休)	火曜振替授業
	6日(金)	高専祭準備 (午後)	
	7日(土)	高専祭 (8日まで)	
	8日(日)	東海地区高専ラグビー大会	
	9日(月)	高専祭片付け (午前)	
	22日(日)	ロボコン全国大会	
12月	2日(水)	1~4年中間試験 (8日まで)	
	4日(金)	テクノフォーラム	
	8日(火)	専攻科入学説明会 (予定)	

12日(土)	工学系数学統一試験 (4年生)
16日(水)	3年課外教育特別講演
24日(水)	月曜振替授業
25日(金)	1・2時限授業 大掃除・諸注意
28日(月)	冬季休業 (1月6日まで)

平成22年

1月	4日(月)	全国高専ラグビー大会 (5日まで)
	7日(休)	授業再開 全国高専ラグビー大会
	8日(金)	3年合宿研修説明会
	9日(土)	全国高専ラグビー大会 中部近畿地区高専将棋大会 (10日まで)
	12日(火)	3年合宿研修 (15日まで)
	16日(土)	専攻科研究発表会
	18日(月)	専攻科研究・学習発表会 (午後)
	19日(火)	3年到達度試験 (数学・物理) 専攻科研究・学習発表会 (午後)
	20日(水)	1・2年ACE試験
	22日(金)	専攻科後期試験 (2月4日まで)
2月	24日(日)	推薦入試
	3日(水)	3年インターンシップ説明会
	5日(金)	専攻科外部単位認定申請 (9日まで)
	8日(月)	5年学年末試験 (12日まで)
	9日(火)	合宿説明会
	10日(水)	専攻科後期終了
	15日(月)	1~4年学年末試験 (19日まで)
	19日(金)	入試準備
	21日(日)	一般入試
	22日(月)	臨時休業・入試採点
3月	23日(火)	5年卒業研究 (3月2日まで)
	26日(金)	合格発表
	2日(火)	大掃除・終業式
	3日(水)	寮生リーダー研修 (5日まで) 卒業研究発表 (4日まで) 臨時休業 (19日まで)
	4日(休)	入学説明会 (予定) 専攻科臨時休業 (19日まで)
	9日(火)	5学年卒業判定会議
	16日(火)	1~4学年進級判定会議
20日(土)	卒業式・修了式	
23日(火)	学年末休業 (31日まで)	

